

# 「森銑三刈谷の会」だより No. 26

発行 2023/12/16 (月刊・メールでの投稿歓迎)  
例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銑三刈谷の会  
共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu\_s@katch.ne.jp



杉浦日向子(2022)『お江戸暮らしエッセンス』筑摩書房(ちくま文庫)装丁 クラフト・エヴィング商会(吉田浩美・吉田篤弘)

26:2023/11/18 (土)「森銑

三(1895-1985)と江戸風俗研究家・杉浦日向子(1958-2005)」: 参加 14 人

鈴木哲

前座「森銑三は鈴木三重吉(1882-1936)に会っているか」

前回(2023/10/21)森銑三と鈴木三重吉は会っているはずだが、とのお尋ね(塚本吉英さん)があった。

「三郎から請はれて、鈴木さんへ、よろしく願ふ旨の手紙を書いた[c. 1932/6]。(略)挨拶の兼ねての訪問は、つひに一回もせずに(略)永別してしまつた」(『森銑三遺珠II』(1996)pp. 91-92)から、文通(1927-32)はあったものの会ってはいないと考えられる。「三重吉の原稿を見たことがある」(森続編 11(1994):440)も会っていないことを示唆する。会などで見掛けた可能性は排除しない。

本題「森銑三と江戸風俗研究家・杉浦日向子」

ウィキペディア(Wikipedia)の「森銑三」に「江戸風俗研究家・漫画家の杉浦日向子は森を深く敬愛していた」(出典なし)とある。二人は63歳の年の差がある。記述の根拠は何だろうか。9点の資料を参加者で読み解いた。

『ユリイカ』(2008/10)臨時増刊号・杉浦日向子に南伸坊「利発な女の子」に自身の好きなものに森の怪談が見える(p. 129)。毎日(2005/7/26:29)杉浦訃報記事に森はない。杉浦は毎日新聞の書評委員(1993-2000)を務めた。

杉浦(1999/11/7:11)は森『増補新橋の狸先生』(岩波文庫)書評「美しく豊かな日本語のせせらぎ」で「森銑三氏の著作に触れるたびに」「江戸をやっているほんとうによかったなああと心底思える」と書く。「著作」は『森銑三著作集』(1970-72)中央公論社と考えられる。

杉浦(1997/2/2:9)森『偉人暦』上下(中公文庫)書評「二十代にしてこの香気を放つ文体」では「書齋に背後から忍びいつて、板コンニャクで、若先生の頬べたを撫であげたい衝動にかられた」「日本はこの百年、なにをやってきたのかと思わざるを得ない」と称揚、「こころより敬愛する碩学の一人である」と締める。偉人暦「新

愛知」連載の森は28歳、書評の杉浦は38歳である。「森を深く敬愛」根拠は杉浦(1997/2/2:9)である。杉浦(2017)『江戸の旅人書国漫遊』河出書房新社に再掲がある。

杉浦(1985/10/25)「黄表紙の面白さ」『週刊宝石』(杉浦(2017)『大江戸観光』筑摩書房再掲)は、見出した最も古い森の言及である。「故・森銑三氏は『黄表紙の楽しさをわかる人とのみ(略)』に杉浦が「賛同」と書いたのは、森死去(1985/3/7)の7か月後であった。

森銑三・杉浦日向子記事と日向子ワールド

飯田芳子

中日新聞(2023/11/10:17)の会予告を拝見した。網羅された記事にまず驚かされ、読み進むうちに杉浦日向子という一人の女性の生き方浮かび上がってきた。森銑三を尊崇しめりこむ様子が書評を埋め尽くす。「黄表紙の面白さ」「偉人暦」「新橋の狸先生」は、まさに日向子ワールド。個性が銑三と日向子で共通しているように感じられる。面白く興味ある内容で、考古学で新しい方法により先の結果が覆される感覚を覚えた。

「コメディー お江戸でござる」の杉浦日向子

河橋育実

11/18の会は興味深かったです。テレビ「コメディー お江戸でござる」は毎週見っていました。杉浦日向子さんは、お若いのに詳しいなって感心しました。江戸に興味を持つきっかけが銑三さんだったなんてとても嬉しいことです。番組を見ていた時は知らなかったですが、銑三さんとの関係を知り誇らしい気持ちになりました。

銑三が鈴木三重吉に会ったことがあるかの追究もすごいです。大変な調査だったと思います。中日新聞(11/20)「フェライトの父」を読み主人が驚いていました。

タイムマシンがあったら二人の対談が見てみたい

神谷明子

銑三さんの会で杉浦日向子さんが話題になるとは驚きでした。江戸の話なら彼女のお得意ですけど、彼女が銑三さんの著作について書いておられることはびっくりでした。タイムマシンがあったらぜひ二人の対談を生放送して欲しい。美男美女が銑三(ちろり)でお酒ちびちび「偉人暦」を語り合うところが見てみたい(私は下戸)。

予定

27:2023/12/16 (土) 神谷磨利子「森銑三著: 日本少年文庫『徳川家康』(1920)を読む」

28:2024/1/20 (土) 神谷磨利子「森銑三著『おらんだ正月』—「おらんだ正月」って何?—